

日中医学交流中心30周年的历史回顾 日中医学交流センター30周年の歩み



①	②	③
④		⑤
⑥	⑦	⑧
⑨	⑩	⑪

- ① 1991年中心成立時一宮勝也先生(左)と宇都宮徳馬先生(右)
1991年センター設立時の一宮勝也先生(左)と宇都宮徳馬先生(右)
- ② 2007年CCTV访日団
2007年のCCTV訪日団
- ③ 2005年护理研修団
2005年看護師研修団
- ④ 1996年在北京人民大会堂举办的理事会・总会
1996年中国北京中国人民大会堂にて開催された理事会総会の記念写真
- ⑤ 1990年代的吴阶平先生(左)与朴顺子事务局长(右)
1990年頃の吳階平先生(左)と朴順子事務局長(右)
- ⑥ 1990年代与宇都宮徳馬先生(右3)合影
1990年頃宇都宮徳馬先生(右から3人目)を囲む

- ⑦ 2005年日本护理学校协议会访华团访问青岛大学附属医院
2005年日本看護学校協議会訪中団が青島大学附属病院を視察
- ⑧ 1990年代の宇都宮徳馬先生(左)与巴徳年先生(右)
1990年頃の宇都宮徳馬先生(左)と巴徳年先生(右)
- ⑨ 2011年访问北京的中村祐輔先生(左)与巴徳年先生(右)合影
2011年北京を訪れる中村祐輔先生(左)と巴徳年先生(右)
- ⑩ 2009年中心理事到大使馆表敬访问
2009年中国大使館を表敬訪問する理事
- ⑪ 2019年在东京召开的理事会・总会后的联谊会
2019年東京での理事・総会後の懇親会

年代	1991	1992	1993	1994	1995	1998	1999
日中医学交流中心大事記 日中医学交流センターの出来事	<p>事務所を代々木の「宮ビル」におく 中国との関係部署と協力し、医療機器等を中国各地の医療施設に提供開始 宇都宮徳馬先生、一宮勝也先生、朴順子先生が中心となり中国衛生部所属の中華医学会東京連絡事務所を開設 以宇都宮徳馬先生、一宮勝也先生、朴順子女士为中心，开设中国卫生部下属中华医学会驻东京联络处</p>	<p>吴階平先生が名誉会長に就任 『日中医学交流センター』へ名称変更。一宮勝也先生が初代会長、朴順子先生は副会長兼事務局長、宇都宮徳馬先生、 宮徳馬先生、吳階平先生就任名誉会長 改名为『日中医学交流中心』，一宮勝也先生就任第一任会长，朴順子女士就任副会长兼事务局长，宇都</p>	<p>当センター機関誌「日中医学交流」を創刊 日中医学交流中心会刊『日中医学交流』創刊</p>	<p>中国中華予防医学会の東京事務所を当センター内に設置 中国中華予防医学会東京联络处开设在本中心</p>	<p>发生阪神淡路大地震 阪神淡路大震災発生 9月9日東京にて、「日中東方医学交流と発展」講演会を日中友好協会と共同主催にて実施 9月9日と日中友好協会共同主办以『日中東方医学交流与法阵』为题的演讲会 日中医学交流センターの公益法人化に向けて北京人民大会堂にて定期理事会を開催 为推动本中心的公益法人化，在北京人民大会堂召开定期理事会议</p>	<p>日本病院管理研究協会と共同で日本病院管理教材を編集し、中国の病院院長を対象とした病院管理研修会を実施 编辑日本医院管理教材，举办以中国医院院长为对象的医院管理培训 田病院院長）が発表した 10月12日 北京にて心臓臨床外科報告会を実施。当センターの庄司佑副会長（日本医科大学元校長 藤崎寿路先生（成 田医院院長） 发表演讲 10月12日在北京举办心脏临床外科汇报会。本中心庄司佑副会長（原日本医科大学校长 藤崎寿路先生（成</p>	<p>東京都よりNPO法人の認可を受ける（特定非営利活動法人） 被东京都认定为NPO法人（特定非营利活动法人）</p>



朴順子女士（创办人）
 1991年 创立日中医学交流中心。就任副会长兼事务局长
 2013年7月逝世
朴順子先生（創設者）
 1991年 日中医学交流センター設立。副会長兼事務局長に就任
 2013年7月逝去



宇都宮徳馬先生（名誉会長）
 日本の政治家
 米诺发源制药创始人
 2000年7月逝世
宇都宮徳馬先生（名誉会長）
 日本の政治家
 ミノファーマ製薬創始者
 2000年7月逝去



一宮勝也先生（第一任会长）
 作为第一任会长免费提供办公室，努力为中国医学事业做出贡献
 2002年12月逝世
一宮勝也先生（初代会長）
 初代会長として事務所を無償提供し、中国への医学貢献に尽力された
 2002年12月逝去



吳階平先生（名誉会長）
 有吳階平医学基金会等为中国医学发展做出贡献的冠名的医学相关基金会及奖项
 2011年3月逝世
吳階平先生（名誉会長）
 吳階平医学基金会など中国医学の発展に寄与した氏の名を冠した医学関連基金、賞がある
 2011年3月逝去



会刊『日中医学交流』創刊时为季刊，编辑部设在北京的中日友好医院内，主要承担将日本的医学相关信息翻译成中文向中国国内传递的作用
 機関誌「日中医学交流」は当初年に4回発行されており、編集部は北京、中日友好病院内にあった。主に日本の医学情報を中国語に翻訳し伝える役割を担った



北京中医药大学校长 龙致贤先生（中）
 北京中醫藥大學校長 龍致賢先生（中）



医院管理培训教材
 病院管理研修会の教材



照片中，右4为庄司先生，右3为藤崎先生
 写真右から4人目が庄司先生、3人目が藤崎先生

TIPS①

朴（平山）順子女士

为日中医学交流中心的创立作出重大贡献的朴順子女士，爱着中日两国，也为众人所爱戴

朴（平山）順子先生

日中医学交流センターの設立に大きく貢献された朴順子先生は日中両国を愛し、多くの方に愛された



1995年7月 朴順子事務局長积极参与中国女医师协会的创立（右2为朴順子事務局長）
 1995年7月 朴順子事務局長が設立に大きく貢献した中国女醫師協会が設立された（写真右から2人目が朴順子先生）

2000	2001	2003	2004	2005	2006	2007
------	------	------	------	------	------	------

中国の看護師訪日研修を開始（一葉看護学院&医療法人鳳生会成田病院）
 开始接收中国护士的赴日培训（一叶看护学院&医疗法人凤生会成田医院）

医療機器提供事業に代わって人的・学術的交流が活動の中心となる
 活动的重心由医疗设备提供业务转向人员・学术交流

发生SARS SARS発生
 緊急支援物資及び義援金を寄贈
 SARS発生時に社団法人日中友好協会等と協力し、中国政府に対し2500万円相当の
 2500万日元的SARS緊急援助物資及捐款
 『非典』（SARS）时期、与社団法人日中友好協会等协力向中国政府捐赠约价值
 水島裕先生が第2代会長に就任
 水島裕先生就任第二任会长



**水島裕先生
 (第二任会长)**
 医生・政治家
 2008年5月逝世
**水島裕先生
 (第2代会長)**
 医師・政治家
 2008年5月逝去

法人会員・個人会員の募集を開始
 开始募集法人会員・個人会員
 平山郁夫先生が名誉会長となる
 平山郁夫先生就任名誉会长
 水島裕会長が「中国科学技術進歩賞」を受賞
 水島裕会长获『中国科学技术进步奖』



**平山郁夫先生
 (名誉会长)**
 日本的画家
 2009年逝世
**平山郁夫先生
 (名誉会长)**
 日本画家
 2009年逝去

当センターの中国PLDD研修基地を北京垂楊柳医院に開設
 在北京垂楊柳医院开设本中心的中国PLDD培训基地
 当センター内に中華人民共和国衛生部中日友好医院日本東京事務所を設置
 在本中心设立『中华人民共和国卫生部中日友好医院日本东京联络处』



2005年2月 签约仪式
 中日友好医院院长 许树强（前左）
 水島裕会長（前右）
 2005年2月、調印式の様子
 （前列左、中日友好医院の許樹強院長、右は水島裕会長）

中国大使館にて当センター設立15周年記念講演会・記念パーティーを開催
 在中国驻日本大使馆举办本中心成立15周年纪念演讲会・纪念招待会
 中国国家外国專家局が定める国際人材交流サービス国外機構への認定資格を受ける
 提交关于中国国家外国专家局认定的国际人才交流服务境外机构的申请



王毅特命全權大使在大使馆召开
 演讲会上致辞
 大使館で行われた
 記念講演会で挨拶
 する王毅特命全權
 大使



与水島裕会長、王毅大使を囲んで
 合影留念
 与水島裕会長、王毅大使を囲んで
 記念撮影



非典時捐贈の救援物資
 SARSの際の支援物資



中日友好医院副院长刘晓勤先生(左)
 水島裕会長(中)朴順子事務局長(右)
 中日友好病院副院長劉曉勤先生(左)水
 島裕会長(中)と朴順子先生(右)



中日友好医院被指定为2008年北京奥运会外国选手
 接收医院，为帮助日中友好医院培养护理人才，从
 2005年10月开始每三个月接收来日研修护士8名，
 持续三年共培养100名
 2008年北京五輪の外国人選手受け入れ病院として指定
 された中日友好病院に協力し、2005年10月から8名ずつ
 3か月間の訪日研修をサポート。3年間で100名の臨床
 看護師を受け入れた



2004年、在国际女医生会议上的朴顺子事务局
 长（左3为朴顺子事务局长）积极参加中心的公
 关活动
 2004年の国際的な女性医師の会合にも中国と日
 本を代表し参加。対外活動にも積極的に参加しセ
 ンターを自らピーアール(左から3人目が朴順子先生)



2011年9月、在哈尔滨医科大学参加名誉教授授予
 仪式的中村祐輔(右7)先生与朴顺子事务局长(右5)
 重视与母校的交流
 2011年9月、ハルビン医科大学にて名誉教授授与式に参
 加する中村祐輔先生(右から7人目)と朴順子事務局長(右
 から5人目)母校との交流を大切にされていた



2013年7月、日中医学交流中心创始人朴顺子女士逝世。在中国和
 日本举办朴顺子副会长的追思会。在日本的追思会由大坪修会长任主
 办人代表，包括中国大使馆韩志强公使在内的众多相关人员到会追思
 了逝者
 2013年7月、日中医学交流センター創設者朴順子先生逝去。朴順子先生を
 送る会が同年秋に日本、中国で開催され、日本では大坪修会長が発起人代
 表を務められ、中国大使館をはじめ、多くの関係者が個人を偲んで集まった

2008

大坪修先生が第3代会長に就任
大坪修先生就任第三任会長
などを寄贈
四川大地震発生時、日中友好協会と共同で中国赤十字へ460万円の義援金と、3000万円相当のテント、消毒剤
価値2300万円の帐篷消毒液等援助物資
四川汶川大地震発生時、为救援灾区与日中友好协会共同举办义捐活动、向中国红十字会捐款460万日元及
发生汶川大地震 四川大地震発生



大坪修先生
(第三任会長)
大坪修先生
(第3代会長)



贈到中国の帳
中国に寄贈されたテント

2010

10月、メディカルツーリズムの高まりを受け、センター内で医療通訳養成講座をオープン
10月、为应对医疗旅游业的兴起、中心开设的医疗翻译学习班开课
6月28日～7月1日にかけて日本の製薬企業を中心に中国医薬産業視察団を主催し、上海・北京を訪問
6月28日～7月1日、组织以日本制药企业为中心的中國医疗产业考察团访问上海、北京
6月、事務所を飯田橋明成ビルへ移転
6月、办公室迁址至飯田橋明成大樓



到卫生部表敬访问的考察团(前三, 左二为大坪会长及夫人)
卫生部を表敬訪問する視察団(前列左から3人目、2人目が大坪修会長・夫人)



医疗翻译学习班上课场景
通訳養成講座の様子

2011

12月、創立20周年記念講演会を中国大使館で開催
12月在中国駐日本大使館、举办本中心成立20周年紀念講演活動
8月、当センター事務所を新宿三井ビル2号館に移転
8月、办公室迁址至新宿三井大廈2号館
发生东日本大地震 東日本大地震発生



2011年12月、我中心在中国大使館与大使館共同主办以【二十一世紀の日中医疗合作-跨越国界与地域】为題的研讨会。研讨会结束后、在大使館宴会厅举办的招待会上、当时的中国大使館韩志強臨時时代发表賀辞

2011年12月、中国大使館で「二十一世紀の日中医療協力—国と地域の境界を越えて」と題する講演会を中国大使館と共催した。講演会の後、中国大使館において日中医学交流センター20周年記念レセプションが開催され、韓志強臨時代理大使より祝辞をいただいた

2012

4月、北京老年病院と共催にて、「患者に合わせた投薬支援」の勉強会を開催
4月、与北京老年医院共同主办「符合患者的用药支援」演讲会



在北京老年医院演讲的日本服药支援研究会(原简易悬浊法研究会)倉田NAOMI代表
北京老年病院にて講演する日本服薬支援研究会(旧 簡易懸濁法研究会)の倉田なおみ代表



上：在北京演讲的辻井博彦先生
下：参观北京二十一世紀医院的大坪修会长与辻井博彦先生
上：北京にて講演する辻井博彦先生
下：北京二十一世紀病院を見学する大坪修会長と辻井博彦先生

TIPS②

近年来赴日研修的变化

2010年以来、除了原有的医师、护理人员相关培训之外、医院相关人员以外的访日团也增加了
2020年是线上交流的第一年、确立了新方式的交流。除了以往的来日和赴华交流、增加了线上交流的选项

ここ数年の訪日研修的变化

2010年以降は引き続き、医師や看護師の研修もあったが、病院関係者以外の訪日団が増えた
2020年はオンライン交流元年となり、今後の新しい日中間交流のスタイルを確立した。これにより従来の訪日訪中交流以外の選択肢が広がった



2014年11月、北京生前預囑協会一行赴日。与大坪修会长夫妇(右)的餐会合影
2014年11月、北京Living will協会一行が来日。会食する大坪修ご夫妻(右)



2015年、北京首都儿研所访日团来日、访问新宿牛込保健中心
从这个时期开始、专业领域的访日团逐渐增多
2015年、北京首都小兒科研究所訪日団が来日し、新宿の牛込保健センターを訪問。このころより専門領域に分かれた訪日団が増え始める



2015年12月湖南省红十字会访日团赴日、访问了日本赤十字社总部、第二年2016年8月也派访日团赴日、访问了日本赤十字社大阪分部
2015年12月に湖南省紅十字会が来日、日本赤十字社本社を訪問、翌年2016年8月に同会が来日し、日本赤十字大阪支部を訪問した

2015	2017	2018	2019	2020	近年
<p>2015年度の第2号より機関紙日中医学交流の編集部を北京中日友好病院から東京に移管する</p> <p>2015年度の第二期开始将会刊编辑部从北京的中日友好医院转到东京</p>	<p>当センター事務所を神楽坂Piazza大廈 办公室迁址至神楽坂Piazza大廈</p>	<p>11月、中国国家外国专家局による2週間に及ぶ大型訪日研修団「広東省災害医療訪日研修団」を受け入れる</p> <p>11月、接收中国国家外专局项目—广东省卫生健康委的卫生应急医疗访日研修团</p>	<p>11月、昨年に続き、中国国家外国专家局より3週間の大型研修「北京病院管理センター訪日研修」を受け入れる</p> <p>11月、继上一年度再次接收中国国家外专局项目—北京医院管理中心的3周大型访日研修团</p> <p>6月、中国教育国际交流協會の依頼により初の領域別研修を7チーム受け入れる</p> <p>6月、开始受中国教育国际交流協會委托，初次接收各专业的主任级别的7个研修团</p> <p>3月、日中医学交流センターの公式WECAHTをオープン</p> <p>3月、本中心微信公众号「日中医学交流」公开</p>	<p>发生新冠病毒（COVID-19）疫情 COVID-19 發生</p> <p>2月、新型コロナウィルス感染症発生時、日本から中国へN95医療用マスクを寄贈。4月、中国から寄付頂いたマスクなど支援物資を日本の医療施設に寄贈</p> <p>2月、新型コロナウィルス感染症発生時、日本から中国へN95医療用マスクを寄贈。4月、中国から寄付頂いたマスクなどの支援物資を日本の医療施設に寄贈</p> <p>2月、新冠疫情影响（COVID-19）期间，先后从日本向中国国内捐赠N95口罩等防护物资。4月，将中国捐赠的防护物资分赠给日本的医疗机构</p> <p>6月、日中間のオンライン医学交流を開始</p> <p>6月、开始新的交流形式—中日线上医学交流</p>	<p>など研修団500団体以上、中国医療関係者研修受け入れ人数1万名にのぼる</p> <p>2020年度までに、当センター招聘で訪中した日本人専門家350名余り、中国からの病院管理者、医師、看護師信頼関係を築き、日中間の医学交流の懸け橋となった</p> <p>設立30年来、当センターは日本の官庁関連部署、医学団体、医学研究機構、大学病院、国立・私立病院と良好な等相关団体超过500団体、为中国医疗卫生领域培训人才近万人</p> <p>截至2020年，本中心共组织邀请日本专家350余人次访问中国，接待中国医院管理者、医师、护士建立了良好的信赖关系，搭建起中日两国医学交流的桥梁</p> <p>成立30年来，本中心与日本政府相关部门、医学团体、医学研究机构、大学附属医院、公立・私立医院等</p>



改版杂志封面。当年参访交流过的医院的介绍新しくなった表紙。その年にお世話になった病院を紹介



上：吳景贈團長与蔵中勝事務局長
下：在DMAT事務局与小井戸雄一先生（右三）合影
上：吳景贈團長与蔵中勝事務局長
下：DMAT事務局にて小井戸雄一先生（右から3人目）を囲んで



消化癌专业研修团来日时，在癌研有明医院听课场景
消化器癌研修团来日時のがん研有明病院にて講義を聞く



北京市医院管理中心研修团欢迎会上合影留念
北京市病院管理センター研修団歓迎会での記念写真



新冠疫情（COVID-19）期间，向驻日中国大使馆捐赠N95口罩
新型コロナウイルス感染症発生時、中国大使館へN95医療用マスクを届ける



2017年、在宅医療や介護等考察を目的の研修団増多。另外、随着中国各地大型医院建设增多，来日参访考察日本医院建筑设计的团队也增多了
（左图：2017年5月常熟中医院访日团参观笑脸之家诊所时的照片
右图：2017年11月浙江大学医学院第二医院访日团拜访杏林大学医学部附属医院学习医院建筑设计）
2017年、在宅医療や介護の問題などをテーマとする研修団が増える。また、中国各地で大型病院の建設も相次ぎ、日本の病院デザインを学びに建築・設計チームも来日し研修を行った
（写真左：2017年5月に常熟中医院が来日した際の写真のおうちクリニックでの在宅医療や遠隔治療について学ぶ様子
写真右：2017年11月に浙江大学医学部附属第2病院が来日し、杏林大学で病院デザインを学んだ）



2019年12月、协办第四届中日友好脊柱外科研究会
2019年12月、第4回中日友好脊柱外科研究会の開催をサポート



2020年6月、开始新的交流形式—中日线上医学交流
2020年6月、日中間のオンライン医学交流を開始